



今号のトピック

1. 地域包括ケアの本質
2. 秋田市の将来の姿
3. 総合事業
4. 生活支援コーディネーター
～担当者の紹介～

タイトルの「あみ」って？

amiはフランス語で「仲間・友だち」。いま私たちが取り組み始めたのは、身近な地域での仲間づくり・楽しい参加の機会づくり。年齢や立場を問わない、気軽な出会いと心地良いゆる～いつながり。それをみんなで手作りしていく過程は、まるで「編み」作業のよう。その過程もお伝えしていきます。

1. 地域包括ケアの本質

数年前から「地域包括ケア」という言葉を見聞きする機会が増えました。主に医療や介護など公的社会保障制度のあり方を巡って取り上げられることが多いのですが、実は世代を問わず私たち一人ひとりに「取り組みへの理解と参加」が求められている、これからの方針です。

いま日本はとても厳しい局面に立たされています。極端な少子高齢化に加え人口減少、とりわけ現役世代が急速に減っていきます。高齢者が激増すると言われますが、それは大都市圏の話。秋田市では2025年までは高齢者人口が増えますがその後はキープ、と予想されます。ただ、地方では大都市圏以上のスピードで現役世代が激減するので、人口に占める高齢者割合が全国で急増する、と考えた方が正しいかもしれません（秋田県は既にトップランナーです）。

現役世代の減少は全国共通で、

「今の制度のまま」年金・医療・介護などの社会保障制度を今後も中心的に支え続けるのは難しく、高齢者の負担増にも限りがあります。また財政面だけでなく、現役人口の減少は医療・介護の人材確保すら難しくし、暮らしを支え合う家族機能をもたない単身世帯が既に3割を越えていることを考えても、年齢を重ねてなお地域で安心して暮らし続けるには、今後は現役の専門職以外に「**多様な支援の担い手参加**」が必要になることが分かります。

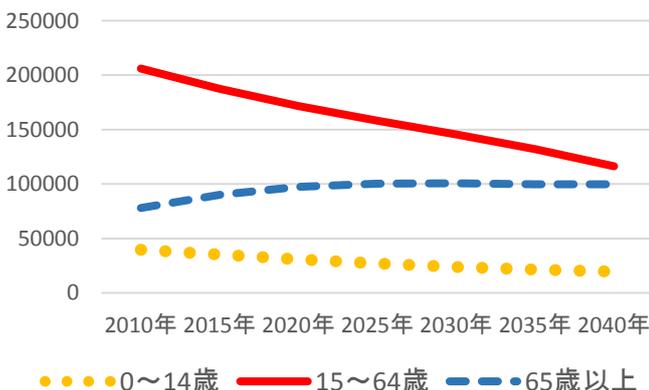
地域の状況や特性に応じた「地域包括ケア」体制は、①医療・介護の一体的なケア（専門職）②個人や事業体など**多様な参加による地域での支え合い**の拡充（個人の健康寿命への自助努力も含む）、が柱です。どちらも、住み慣れた地域で尊厳や生き甲斐をもって長く暮らし続けたいという願いを、人生の当事者である私たちみんなで実現しようという、「理解と参加（協働）のある**地域づくり**」が欠かせないのです。

2. 秋田市の将来の姿～2040年（H52年）

今年3月公表の「秋田市人口ビジョン」によると、このまま推移すると、今から24年後の2040年には…

- ・総人口は9万人（27%）減り、23万人に ※2010年比
- ・年少人口は51%、現役人口も44%減る
- ・高齢者の割合は42.3%（2010年は24.1%）に
- ・現役世代の割合は49.4%（ " 63.7%）に

※注）現役人口は15～64歳人口で、就労者数ではない



3. 総合事業

秋田市では来年4月から**介護予防・日常生活支援総合事業**が始まる予定です。ちょっとその概要をみてみましょう。

私たちは「人口減少」と「増大する医療・介護需要」への対応に直面しています。特に医療・介護を必要とする割合の高い高齢者の健康寿命を延ばし、要介護・要支援状態になることを少しでも防いで地域生活の安定と継続を目指します。

平均すると人生最期の時間、男性9年・女性は12年、療養や介護が必要になるという調査結果もありますが、この時間の短縮が国民みんなにとって幸せなことだと考えられるからです。

事業では主に①身近な集い場での活動を通じた「**仲間づくり・健康づくり**」、②お互い様で無理のない範囲の「**生活支援**」、の2本柱に取り組みます。どちらも徒歩圏内の小さなコミュニティを中心とした活動を

想定。特徴的なのは、支える側は専門職だけでなく民間企業や住民・ボランティアなど地域の多様な担い手参加を前提にしている点です。全国一律の介護保険と異なり、支援内容や担い手には市町村の裁量で幅広い展開が期待されます。

担い手で特に期待されているのは「アクティブシニア(主体的・行動的な高齢者)」層で、こうした地域活動に楽しんで参加できれば、結果的には参加者自身の介護予防やコミュニティの活性化にもつながる。さらには世代・役割を問わず、私たちみんながその時の必要によって「支え合いの担い手・受け手」にもなり合え、お互いの関係もフラット(対等)なイメージです。

総合事業の主旨は、**社会参加・地域活動を通じた「健康寿命と地域での支え合い」効果**です。市はこの主旨に照らして「地域で必要な住民主体の活動」の立ち上げや運営を側面から支援します。詳細が分かり次第またご案内していきます。

健康・仲間づくりの集い場のイメージ

- ・歩いて行ける場所
- ・趣味や新しい友人
- ・子供や若い世代も
- ・ちよつとおいしい物も
- ・ためになる話や運動
- ・とにかく楽しい
- ・タダまたは安い 他

生活支援のイメージ

- ・見守りのお声かけ
- ・ついで買い物
- ・ついでゴミ出し
- ・スマホの使い方
- ・ワンちゃんのお散歩
- ・除雪や冬囲い 他

4. 生活支援コーディネーター

この春、当センターに生活支援コーディネーター(別称「地域支え合い推進員」。以下「SC」)が配置されました。

SCは、「仲間づくりや健康づくり・生活支援」のための**地域主体の支え合い活動**の充実に向け、**環境整備・地域づくりを促進**する役割を担います。

例えば、世代や役割を問わずこうした支え合い活動に意欲や関心ある人が実際に取り組もうとして、担い手・会場・経費の確保や活動内容に戸惑うことが予想されます。また既にそうした活動はしているけれど、今後さらに要望に応えるには見直しが必要と考えている人もいるかもしれませ

ん。そして「こんな機会・支えが欲しい(けどまだ無い)」という人もいるでしょう。

SCはそうした地域の声や夢を集め、実現するには何が必要か、協力を得られそうな地域資源や人材・支援制度はあるか、など相談や企画・調整役を担います。ただ最も大きな使命は、こうした地域主体の活動参加に向け、地域の方々の「幅広い理解」と「私もやってみたいという思いを引き出す」こと＝**地域づくり**に尽きます。

ただSCも一人でこうした使命を果たすのは難しく、地域の様々な関係者からなる**協議体**を設置、サポートを得ながら取り組んでいきます。この協議体については、次号で詳しくお伝えします。

生活支援コーディネーター

高橋 美和子



御所野・四ツ小屋・御野場・仁井田エリアを担当します。こう暮らしたい・こんなまちでありたい、と誰もが夢を持ち寄れる機会を作ります。みんなでワクワクしながら夢をかたちにしましょう。



編集後記

来年からの総合事業を前に、皆さまにお伝えしたいことが沢山あって広報を発行することにしました。発行・回覧には地域の皆さまにも多大なご協力を頂き、心から感謝申し上げます。これからどうぞよろしくお願い致します。

発行

社会福祉法人 秋田けやき会
御所野地域包括支援センターけやき
〒010-1412
秋田市御所野下堤五丁目1番5号
電話 (826) 0651 / 代表
FAX (826) 0652